

# まるっこ Marukko

Maruko Central Hospital Public Relations Magazine

Free

# 10

2019. 春号



feature articles  
特集  
再

丸子中央病院 副病院長

## 松澤 賢治

【丸子中央病院の理念】 本院は、質の高い医療の提供を通じて地域のしあわせ創りに貢献します。

## 「60周年の区切り」

丸子中央病院は今年60周年を迎えることになり、いろいろなイベントが企画されています。

60年は人間で言えば、人生の区切りである還暦であり、定年退職でお祝いする年です。私も昨年還暦を迎えましたが、自分へのご褒美には赤いワインと赤い石を購入してお祝いしました。

病院には重ねた年月による節目はありませんが、時代の変化で国の政策が変わる毎にその都度名称や機能を変えてきました。丸山大司先生が開院した19床の丸山医院は一般病床330床の丸子中央総合病院になりました。その後一部は慢性期病床となり、今は地域包括ケア病床や介護医療院と呼ばれるようになりました。

丸山大司先生が「大志を抱いて」に書いていたような「1日で外来100人、往診50人」は時代の変化の中で今ではあり得ない数となりましたが、先生がしようとした地域医療の精神は引き継がれ、365日24時間無休、地域のかかりつけ医としての機能は継続され、信頼されていると自負しています。

ジェームズ・ハンターの「サーバント・リーダー」という本があります（研修センター長の橋倉泰彦先生から勧められて読みました）。リーダーのあり方を書いた本ですが、本当のリーダーに求められるものは奉仕であると書かれてました。患者さんとの関係においても、あてはまるのではないかと思いました。医者の一

の役割は患者さんの指導、教育ではなく、患者さんを支え、奉仕することになります。丸山大司先生は強いリーダーシップで医院を総合病院にしたと思われがちですが、「患者さんの期待を裏切らない」という強い思いを持って「医者は患者さんに奉仕するもの」と言う精神を大事にたリーダーでした。

私もこれからこの奉仕を続けていきたいと思っています。今こうして一人前な顔をして医者として仕事をしているのも、これまでに見送った多くの患者さんのお蔭であり、周りで支えてくれる同僚の医師や看護師さんなどのスタッフの協力あってこそです。感謝の気持ちを忘れずに仕事をしていきます。



イラスト/森田 宏子

### Contents

特集再  
本の命を生きながらえさせるために

1~4

連載第4回  
丸子電鉄から読み解くー丸子の歴史  
上田・丸子と、中南信を鉄道で結ぶ夢①

5

トピックス  
Marukko TOPICS

6

# 本の命を

きながらえさせるために



上田市内に3つの物流拠点を持つ(株)バリューブックスは、古本のネット販売業者です。しかし、単なる古本販売業者ではありません。「本をもっと活用出来るようにする」ための活動を次々と展開しています。現在の活動とこれからの展開を、バリューブックスの西山卓郎さんにお聞きしました。



たが、子どもたちにも先生にもこれほど喜んでいただけたことが想像以上に嬉しかったです。本をお渡しした数分後に、先生がその本を読み聞かせし、子どもたちが熱心に聞き入る姿を見てみると、本の持つパワーって一体なんなのだろうと考えさせられます。つい先ほどまでは、リサイクルに回るしか無かった本が目の前でちゃんと本として活用されているのですから！



リユーブックスの倉庫には毎日約2万冊の本がお客様から送られてきます。届いた本を買い取り、インターネットで販売することが私たちの主な仕事です。ただその中で、届いた本の内約50%は古紙リサイクルに回ってしまうという現状があります。ベストセラーなど市場に大量に出回っているため、需要が少ないため、など理由はさまざまですが、インターネットの市場では価値をつけることが難しい本が古紙リサイクルに回されます。しかし、インターネットでの販売が難しい本も、差し出し方を変えればまだ読まれ得るものがあるはず。その思いから、本をレスキューするプロジェクトに挑戦してきました。その内の1つが2010年から始まった「ブックギフトプロジェクト」です。本を必要な場所に届けることによって、本は命を生きながらえさせることが



できますし、人生が変わる一冊に出会える機会が増えるかもしれません。

今回、当社で運用している「ブックバス」で丸子中央病院の保育園「あつたかステーションわくわく」に出向き、本を寄贈しました。私自身、今回保育園への寄贈に初めて立ち会いまし



誰かを応援する  
FURE FURE  
BOOKS

バリューブックスは古本を売買しているだけではありません。市内にある美店舗BOOKS & CAFE NABOでは本の循環で町を良くしていく取り組みとしてFURE FURE BOOKSを展開しています。FURE FURE BOOKSは、読み終えた本を「買い取る」ではなく「寄付」をお願いします。読み終えた本で、私たちが繋がりのある上田市内で活躍している4つの団体の活動を応援する、という取り組みです。

FURE FURE BOOKSが応援している4つの団体を紹介します。



1 NPO法人  
リベルテ

リベルテパブリッシングの応援  
「NPO法人リベルテ」は障がいのある人たちとともに、「何気ない自由」や「権利」を尊重していきける社会や人、関係づくりを目指しています。リベルテは「表現する場所」であり、その表現を世の中の皆様と共有するために、「リベルテパブリッシング」による本の出版を目指しています。



2 NPO法人  
侍学園スクオーラ・今人

寮の図書館作りの応援  
侍学園は「学びや新しい自分との出会いを求める全ての人のための学校」を設立趣旨とし、年齢の制限をせずに生徒を受け入れています。2018年に生徒のための寮を開設しました。本はもとより、ブックシェルフの設置などいただいた寄付によるものです。さらなる「図書館」の充実を目指しています。



「侍学園の学生寮に寄付された本が配置されています」

3 NPO法人  
上田市民エネルギー

地産地消の  
自然エネルギー作りへ

長野県上田市を含む東信エリアは年間を通じて日照時間が長い地域です。その特性を活かし、太陽光パネルをみんなで設置する仕組み「相乗りくん」を運営している上田市民エネルギー。FURE FURE BOOKSのご寄付を活かして「ソーラー充電スタンド」を設置し、皆さまのスマホを充電いただくことで、太陽の力を身近に感じていただきたいと思います。



4 上田映画  
居場所作りの応援

上田市の方ならなじみ深い上田映画。2017年4月から再び定期上映を開始しました。NABOでは映画にまつわる本やCD、DVDをロビーに設置しています。来場される映画ファンの方にはとても喜んでいただいています。FURE FURE BOOKSでは映画を観たあとにお茶が飲めたり、居合わせた人と映画について話したり、映画を観なくてもちよっと立ち寄れるような場所を映画館の一角に作る活動を応援しています。

本をきっかけに良き隣人に  
BOOKS & CAFE NABO

本をインターネットで販売していると、スムーズで便利な反面、本を買ってくれた人の顔を見ることが声を聞くことはできません。実店舗だからこそできる、本と人との関わりを自分たちで作りたい。そんな思いで始めたのがBOOKS & CAFE NABOという実店舗です。「NABO」とはデンマーク語で隣人の意味があります。来てくれる人にとって良き隣人であるように、そんな願いを込めてつけた名前です。ぜひお気軽にお立ち寄りください。



理事長の藤川まゆみさん



株式会社バリューブックス  
西山 卓郎 さん  
小売 → 営業 → 現在古本屋  
本をきっかけに何が出来るのか、試行錯誤しながら日々楽しく働いています。  
音楽好き&ベース弾き。  
●県立長野図書館協議委員



# 『医療と介護の総合相談ステーション』 『病児保育センター』がオープン

## ●医療と介護の総合相談ステーション

「地域医療連携室」「入退院支援室」「医療福祉相談室」「訪問看護ステーション」「訪問リハビリテーション」「居宅介護支援センター」を1か所に集約し、医療・介護に関する困りごとを横断的に対応していきます。地域のみなさん、患者さん、利用者さん、ご家族など、どなたでもご利用いただけますのでお気軽にご相談ください。

- 利用時間：9:00～17:00(月～金) 9:00～12:00(土)
- お問い合わせ：0268-42-1111



## ●病児保育センター

病気中や、病気の回復期にあるお子さんで保護者が就労などの理由から家庭で保育することが難しい場合、一時的に看護師や保育士が代わりに保育をする施設です。仕事と子育ての両立を支援します。

- 利用・予約時間：月～金曜日(祝祭日、年末年始を除く)8:00～17:00
- 対象児童：上田市・長和町・青木村に住んでいるお子さま  
上市内の保育園、幼稚園、認定こども園、認可外保育所に在園しているお子さま・保護者が上市内に勤務しているお子さま
- 対象年齢：1歳～小学校3年生
- 定員：6名 ●利用料金：1日1人1,000円
- ※ご利用の際は、直接下記センターへ予約してください。
- お問い合わせ：0268-75-6374



眺めもよく木のぬくもりあふれる空間で  
お子さんをお預かりします。



小児科診察室も同フロアに設置。

### 【子育て支援の取り組み】

- 2017年 小児科常勤医 着任
- 2018年 企業主導型保育園 開設  
長野県発達障がい診療地域連携病院として始動
- 2019年 病児保育所開設  
医療・介護総合相談ステーション開設

- 発行  
特定医療法人 丸山会 丸子中央病院  
経営企画課 広報係 Marukko(まるっこ)制作委員会  
〒386-0405 長野県上田市丸中丸子1771-1
- 編集・進行  
北澤 淳一(丸子中央病院)  
安藤 あすか(丸子中央病院)
- アートディレクター  
五木田 忠之(MOKUBA.CO.,LTD.)
- デザイン  
MOKUBA.CO.,LTD.
- お問い合わせは…  
丸子中央病院 経営企画課 広報係  
Marukko(まるっこ)制作委員会まで  
TEL.0268-42-1111  
月曜日から金曜日、10時～17時(祝日・休日・年末年始を除く)



ブックバス内にあった絵本  
は園児たちのお気に入り

## 編集後記

本を前にした園児たちが喜んでる姿を見て、私も数十年前に園児だった時の風景や感じたことを思い出しました。出版業界が危機的状況と言われる昨今ですが、依然として本は人の心を動かします。今回思いがけず情熱を持った皆様にお会いし取材することができましたが、それも、「本の力」があつてこそ。何年かぶりに自分にも読書ブームが訪れそうです。(北澤)

かつて丸子町(現・上田市)は製糸産業が盛んで、物流旅客両面で人の動きの多いところでした。このため、長野県内でも早い時期に鉄道が敷設された場所です。丸子の鉄道の歴史を振り返ることで、丸子の歴史をさかのぼります。

(連載第4回)  
上田・丸子と、  
中南信を鉄道で  
結ぶ夢①

丸子と中南信を隔てる山を越えて鉄道を作りたい、その計画が具体化した時期がありました。その前に今回は、明治・大正時代を通じて多くの先人たちが東信と中南信を結ぼうとした遠大な計画の歴史を振り返ります。

### 幻の中山道幹線

日本最初の鉄道が新橋―横浜間に開業したのが明治5年(1872)。しかし、その当時、東京と京都を結

ぶ日本の幹線はどこを通るのか決まっていませんでした。候補は東海道と中山道。

東海道は箱根の山や富士川、大井川など大河があること、陸運・海運とも既に便利で貨物輸送より安価な手段が選ばれる可能性があること、外国からの攻撃を受けやすいこと、英国人建築師長ボイル氏が中山道を推奨したことなどから、明治16年(1883)、中山道への鉄道敷設が決定しました。中山道幹線の東側は既に鉄道が通っていた高崎から着工することに



赤い路線部が中山道線のおおよその計画

なりませんが、碓氷峠が大きな難関です。そのため、長野県内からも援護工事を行うこととなり、日本海側からの資材運搬線として直江津―上田間を建設することになりました。これが結果的に信越線開業につながります。中山道線は、現在の東御市田中と

海野の間で千曲川を渡り、飯沼村(現：上田市生田)あたりで依田川を渡り、内村川の左岸(北側)を通って鹿教湯から隧道(中山道線全線路の中で最長のトンネル)を通し、松本に抜けるというルートが予定されていました。

しかし、長野県やその周辺の地形があまりに険しく、工事期間や工事費、運航費がかさむこと、列車の速度が遅くなること、などの理由から明治19年(1886)に東海道線への幹線変更の公布がなされました。東京―京都間を結ぶ大動脈ですから、もし中山道線が完成していれば、丸子はもとより長野県の歴史は大きく変わっていたかもしれません。その後も信越線と中南信を結ぼうという人々の意欲は衰えませんでした。(つづく)